

## 会 長 方 針



会長 矢 澤 興 司

「今、子供たちの為に行動しよう、ミレニアム（次の千年）にむけて」

Act now for all the children in the next millennium

今年度は子供たちの問題にテーマを絞り、子供たちの明るい未来の為に活動したいと思っております。各委員会活動のみならず、会員が個人で行っている子供たちに関する活動もクラブとしてそれを学び、支援できるものは協力して、育児から青少年問題まで子供の為になることをしたい、と考えています。Rotary caresという言葉がありますが、careは心配する、面倒をみる、という意味です。子供たちのことをいつも思い、気に掛けている、ということが大切です。子供たちが自分たちはケアーされている、と感じられるようなロータリーケアーを願っています。そして、我々が毎日ロータリーでやっていること、笑顔で挨拶する、友達になる、使命感を持つ、人のために役立つ、思いやりを持つ、などを子供たちに伝えていきたい。

1923年の国際大会の社会奉仕に関する決議（23 - 34）は次のことをうたっています。ロータリーの社会奉仕とは、ロータリアンの個人生活、事業生活、社会生活に「奉仕の理想」（ideal of service）を適用することである。ロータリアンが「超我の奉仕」（service above self）を実証する良い機会である。クラブが集団的に（collectively）一塊となって行動するだけで足りるような事業よりも、広くすべてのロータリアンの個々の（individual）力を動員するもののほうがロータリー精神によりかなっているといえる。クラブで奉仕活動をする事により、会員が奉仕の理論を学び、それを実社会で応用、実践していくことに意義がある、というこの有名な決議を再認識して、改めて今年の活動の原動力としたい。

ロータリーのモットーは、1. 友達になろう、2. エンジョイロータリーです。例会に来て、同じ釜の飯を食べる、まずは「集う」ことに意味があります。全会員が100

%ロータリーを楽しめる、一人一人がactiveになれる、そして意欲的にアイデアを出し合える、このような楽しいロータリークラブを作っていこうではありませんか。

最後に、子供に関するワーズワースの詩の一節を牧歌「マイケル」より紹介します。

「子供と云うものは年老いたものに、この世が与えるあらゆる贈り物にも増して、希望や将来に対する期待をもたらししてくれる。」

“Than that a child, more than all other gifts

That earth can offer to declining man,

Brings hope with it, and forward – looking thoughts”

Wordsworth